

未来都市創造に関する特別委員会実地視察報告

令和4年8月19日、未来都市創造に関する特別委員会が、園田女子大学名誉教授の田辺真人氏にご同行いただき、市内の歴史的資源である下谷上農村歌舞伎舞台、西国街道、花隈城跡を実地視察しました。

下谷上農村歌舞伎舞台は、北区山田町下谷上の天津彦根神社の境内にあり、国の重要有形民俗文化財に指定されています。神戸は日本でも屈指の農村舞台を持つまちですが、特に、北区には地域の貴重な文化遺産である農村歌舞伎舞台が多く点在しています。江戸時代（1840年）に建てられた下谷上農村歌舞伎舞台は、規模の大きさや、太夫座・奈落・回り舞台などの舞台機構、花道の一部が回転して反り橋が出現する特殊機構など設備が貴重で、重要な農村文化の遺産となっています。



江戸時代の西国街道は、日本の中心であった都と朝鮮半島の玄関口であった九州の大宰府とを結ぶ一番重要な幹線道路として発展しました。委員会では、柳原蛭子神社（兵庫宿柳原惣門）→能福寺・兵庫大仏→札幌の辻跡→湊八幡神社（湊口惣門）→西国街道ビル前→JR神戸駅→湊川神社→元町通を巡り、西国街道沿いの神社や道標、史跡などを視察しました。

湊川神社には、南北朝時代に湊川の戦いで敗れた楠木正成が祀られています。境内には正成に関する史跡や、江戸時代に正成の墓石を建立させた水戸光圀の像などがあります。



花隈城（別名：花熊城）は、戦国末期に織田信長の命を受けた荒木村重により築城されました。本丸・二の丸・三の丸からなり、周囲に侍町・足軽町・町屋があったとされています。その後、村重が信長に謀反を起こしたため、わずか数年で花隈城は落城しています。その後、兵庫城築造のため石材が抜かれたと伝えられており、現在、その痕跡は全く残っておらず、位置等も推定されるだけの幻の城となっています。



委員会では、本日の視察を踏まえて、「歴史的資源を活かしたまちづくり」をテーマに、提言に向けた議論を行っていきます。